

5 鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

（鳥取県感染症対策推進協議会情報解析部会）

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年2月19日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第1週から第4週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(1週～4週) (R3.1.4～R3.1.31)	前回(50週～53週)4週 (R2.12.7～R3.1.3)	前々回(46週～49週)4週 (R2.11.9～R2.12.6)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (204) [↑ 21]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (183)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (206)
2 感染性胃腸炎 (141) [↑ 32]	2 感染性胃腸炎 (109)	2 感染性胃腸炎 (113)
3 突発性発疹 (33) [↑ 5]	3 突発性発疹 (28)	3 ヘルパンギーナ (49)
4 咽頭結膜熱 (25) [↑ 11]	4 手足口病 (17)	4 突発性発疹 (30)
5 手足口病 (15) [↓ 2]	5 水痘 (15)	5 水痘 (27)
6 その他 (15) [↓ 14]	6 その他 (29)	6 その他 (44)
(合計 433)	(合計 381)	(合計 469)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は433件であり、14%(52件)の増となった。

増加した疾病	
感染性胃腸炎	29%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、令和2年12月下旬から相次いでクラスターが発生していましたが、1月中旬以降は減少傾向を示しています。全国では引き続き感染者が確認されており、引き続き警戒が必要です。
- ・インフルエンザは、引き続き流行の兆しは認められません。
- ・その他5類感染症は、令和2年12月までと同様に患者報告数は少ない状況です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年3月19日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第5週から第8週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(5週～8週)4週 (R3.2.1～R3.2.28)	前回(1週～4週)4週 (R3.1.4～R3.1.31)	前々回(50週～53週)4週 (R2.12.7～R3.1.3)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (230) [↑ 26]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (204)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (183)
2 感染性胃腸炎 (151) [↑ 10]	2 感染性胃腸炎 (141)	2 感染性胃腸炎 (109)
3 突発性発疹 (25) [↓ 8]	3 突発性発疹 (33)	3 突発性発疹 (28)
4 咽頭結膜熱 (18) [↓ 7]	4 咽頭結膜熱 (25)	4 手足口病 (17)
5 水痘 (16) [↑ 8]	5 手足口病 (15)	5 水痘 (15)
6 その他 (11) [↓ 4]	6 その他 (15)	6 その他 (29)
(合計 451)	(合計 433)	(合計 381)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は451件であり、4%(18件)の増となった。

増加した疾病	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13%
感染性胃腸炎	7%

3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、県内においては落ち着いてきている状況です。全国では、引き続き感染者が確認されており、また変異株は隣県でも確認されてきており、引き続き警戒が必要です。
- その他5類感染症は、令和3年1月までと同様に患者報告数は少ない状況です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年5月6日(木)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第9週から第12週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(9週～12週)4週 (R3.3.1～R3.3.28)	前回(5週～8週)4週 (R3.2.1～R3.2.28)	前々回(1週～4週)4週 (R3.1.4～R3.1.31)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (241) [↑ 11]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (230)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (204)
2 感染性胃腸炎 (167) [↑ 16]	2 感染性胃腸炎 (151)	2 感染性胃腸炎 (141)
3 突発性発疹 (29) [↑ 4]	3 突発性発疹 (25)	3 突発性発疹 (33)
4 咽頭結膜熱 (20) [↑ 2]	4 咽頭結膜熱 (18)	4 咽頭結膜熱 (25)
5 水痘 (17) [↑ 1]	5 水痘 (16)	5 手足口病 (15)
6 その他 (10) [↓ 1]	6 その他 (11)	6 その他 (15)
(合計 484)	(合計 451)	(合計 433)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は484件であり、7%(33件)の増となった。

増加した疾病	
感染性胃腸炎	11%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5%

3 コメント

- ・県内で確認される新型コロナウイルスは、ほぼ全てが感染力が強いと言われている変異株であり、厳重な感染対策が必要です。また、県外行動歴がない、県外者との接触がない事例も多く、県内での日常活動でも、しっかりした感染対策を行うことが重要です。
- ・その他5類感染症は、令和3年2月までと同様に患者報告数は少ない状況です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年5月27日(木)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第13週から第17週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(13週～17週)5週 (R3.3.29～R3.5.2)	前回(8週～12週)5週 (R3.2.22～R3.3.28)	前々回(3週～7週)5週 (R3.1.18～R3.2.21)
1 感染性胃腸炎 (480) [↑280]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (300)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (274)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (229) [↓71]	2 感染性胃腸炎 (200)	2 感染性胃腸炎 (192)
3 突発性発疹 (35) [↓3]	3 突発性発疹 (38)	3 突発性発疹 (34)
4 咽頭結膜熱 (20) [↓3]	4 水痘 (25)	4 咽頭結膜熱 (31)
5 水痘 (10) [↓15]	5 咽頭結膜熱 (23)	5 水痘 (11)
6 その他 (10) [↓1]	6 その他 (11)	6 その他 (21)
(合計 784)	(合計 597)	(合計 563)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は784件であり、31%(187件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
感染性胃腸炎 140%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 24%

3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、様々なルートの感染事例が相次いで確認されており、ほとんどが感染力が強いと言われているN501Y変異株です。
さらに、家族内感染の事例も多く確認されており、家庭内に持ち込まないように職場や学校などで感染対策を行ってください。
また、少しでも体調が悪いときは休暇を取り、かかりつけ医などの医療機関にご相談ください。
- 感染性胃腸炎が急増しています。ノロウイルスを中心に集団発生事例が多く報告されており、注意が必要です。
- 東部地区において、例年よりも早い時期から日本紅斑熱の感染が確認されています。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用などの予防対策をとることが必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年6月15日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第18週から第21週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(18週～21週)4週 (R3.5.3～R3.5.30)	前回(14週～17週)4週 (R3.4.5～R3.5.2)	前々回(10週～13週)4週 (R3.3.8～R3.4.4)
1 感染性胃腸炎 (459) [↑ 12]	1 感染性胃腸炎 (447)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (214)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (179) [↓ 11]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (190)	2 感染性胃腸炎 (156)
3 咽頭結膜熱 (48) [↑ 34]	3 突発性発疹 (27)	3 突発性発疹 (28)
4 突発性発疹 (30) [↑ 3]	4 咽頭結膜熱 (14)	4 咽頭結膜熱 (21)
5 水痘 (9) [± 0]	5 水痘 (9)	5 水痘 (14)
6 その他 (15) [↑ 7]	6 その他 (8)	6 その他 (9)
(合計 740)	(合計 695)	(合計 442)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は740件であり、6%(45件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
咽頭結膜熱 243%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 6%
感染性胃腸炎 3%	

3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、県内における感染の波は収まってきていますが、他県においては引き続き感染者が確認されています。マスク着用、手洗い、換気など感染対策の継続が必要です。特に、感染拡大地域との往来は、原則、控えてください。また、少しでも体調が悪いときは休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- 感染性胃腸炎の感染者数が引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- 咽頭結膜熱が上昇傾向を示しており、注意が必要です。
- RSウイルス感染症が全国的に増加傾向が見られるため、注意が必要です。
- 西部地区で飼い犬の重症熱性血小板減少症候群が確認されました。また、東部地区では日本紅斑熱が確認されています。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用など、これらの感染を媒介するマダニの予防対策をとることが必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年7月9日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第22週から第25週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(22週～25週)4週 (R3.5.31～R3.6.27)	前回(18週～21週)4週 (R3.5.3～R3.5.30)	前々回(14週～17週)4週 (R3.4.5～R3.5.2)
1 感染性胃腸炎 (529) [↑ 70]	1 感染性胃腸炎 (459)	1 感染性胃腸炎 (447)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (186) [↑ 7]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (179)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (190)
3 咽頭結膜熱 (60) [↑ 12]	3 咽頭結膜熱 (48)	3 突発性発疹 (27)
4 突発性発疹 (30) [± 0]	4 突発性発疹 (30)	4 咽頭結膜熱 (14)
5 RSウイルス感染症 (26) [↑ 25]	5 水痘 (9)	5 水痘 (9)
6 その他 (48) [↑ 33]	6 その他 (15)	6 その他 (8)
(合計 879)	(合計 740)	(合計 695)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は879件であり、19%(139件)の増となった。

増加した疾病	
RSウイルス感染症	2500%
咽頭結膜熱	25%
感染性胃腸炎	15%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、6月上旬は新たな感染者は確認されませんでした。6月28日から県内各地で感染者が相次いで確認されています。マスク着用、手洗い、換気など感染対策の継続が必要です。特に、感染拡大地域との往来は、原則、控えてください。
- ・また、少しでも体調が悪いときは休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- ・感染性胃腸炎の感染者数が引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・咽頭結膜熱が引き続き上昇傾向を示しており、注意が必要です。
- ・RSウイルス感染症は、西部地区で患者報告数が増加しています。全国的にも増加しており、注意が必要です。
- ・ウイルス感染による下気道感染の患者が、小児のあいだで全県で目立っており、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年8月27日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第26週から第30週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(26週～30週)5週 (R3.6.28～R3.8.1)	前回(21週～25週)5週 (R3.5.24～R3.6.27)	前々回(16週～20週)5週 (R3.4.19～R3.5.23)
1 感染性胃腸炎 (490) [↓ 169]	1 感染性胃腸炎 (659)	1 感染性胃腸炎 (569)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (267) [↑ 33]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (234)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (244)
3 RSウイルス感染症(124) [↑ 98]	3 咽頭結膜熱 (71)	3 咽頭結膜熱 (45)
4 ヘルパンギーナ (53) [↑ 30]	4 突発性発疹 (35)	4 突発性発疹 (43)
5 突発性発疹 (32) [↓ 3]	5 RSウイルス感染症 (26)	5 水痘 (10)
6 その他 (53) [± 0]	6 その他 (53)	6 その他 (19)
(合計 1,019)	(合計 1,078)	(合計 930)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,019件であり、5%(59件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	377%	咽頭結膜熱	58%
ヘルパンギーナ	130%	感染性胃腸炎	26%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14%		

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、7月中旬から感染力の強いデルタ株を中心に感染者数が急増し、高齢者以外でも症状が悪化する事例が多くなっています。
8月には、感染が急拡大している地域との往来に伴う感染者数の増加も確認されています。県境を越えた移動は原則控えていただき、やむを得ず往来する場合は、厳重な感染予防対策を必ず行ってください。
また、マスク着用、手洗い、換気など感染対策を継続し、少しでも体調が悪いときは休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数は減少傾向を示していますが、引き続き注意が必要です。
- ・RSウイルス感染症は、西部地区で引き続き患者報告数が多く、8月に入り東部及び中部地区でも増加しており、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年9月21日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第31週から第34週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(31週～34週)4週 (R3.8.2～R3.8.29)	前回(27週～30週)4週 (R3.7.5～R3.8.1)	前々回(23週～26週)4週 (R3.6.7～R3.7.4)
1 RSウイルス感染症(521)[↑411]	1 感染性胃腸炎 (380)	1 感染性胃腸炎 (512)
2 感染性胃腸炎 (226)[↓154]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (208)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (196)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (180)[↓28]	3 RSウイルス感染症 (110)	3 咽頭結膜熱 (60)
4 咽頭結膜熱 (30)[↑9]	4 ヘルパンギーナ (35)	4 ヘルパンギーナ (37)
5 突発性発疹 (21)[±0]	5 咽頭結膜熱 (21)	4 RSウイルス感染症 (37)
6 その他 (34)[↑16]	5 突発性発疹 (21)	6 その他 (53)
(合計 1,012)	7 その他 (18)	(合計 895)
	(合計 793)	

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,012件であり、28%(219件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	374%	感染性胃腸炎	41%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、県内全域で感染者数が引き続き多い状況です。60歳以上の感染割合は少なくなっていますが、10歳未満の感染者も多く確認されており、家庭内感染以外の児童間感染も確認されています。8月下旬から減少傾向を示していますが、関連が不明な事例も継続して確認されており、引き続き注意が必要です。マスク着用、手洗い、換気など感染対策を継続し、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。また、他県は依然として感染者数が多く確認されています。不要不急の帰省や旅行など、県境をまたぐ移動は控え、特に、緊急事態措置やまん延防止等重点措置が実施されている地域や、感染拡大地域との間での不要不急の往来は控えてください。
- ・RSウイルス感染症は、県内全域で患者報告数が急拡大し、直近10年間で最も患者報告数が多い状況で、保育園等での集団発生も増えています。家庭内でも重症化しやすい乳児などへの感染を広げないよう、手洗いや手指消毒等の感染対策を徹底しましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年10月20日(水)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第35週から第39週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(35週～39週)5週 (R3.8.30～R3.10.3)	前回(30週～34週)5週 (R3.7.26～R3.8.29)	前々回(25週～29週)5週 (R3.6.21～R3.7.25)
1 RSウイルス感染症(684)[↑128]	1 RSウイルス感染症(556)	1 感染性胃腸炎(554)
2 感染性胃腸炎(238)[↓67]	2 感染性胃腸炎(305)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(272)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(233)[↑14]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(219)	3 RSウイルス感染症(108)
4 ヘルパンギーナ(56)[↑32]	4 咽頭結膜熱(35)	4 ヘルパンギーナ(48)
5 突発性発疹(30)[↑3]	5 突発性発疹(27)	5 咽頭結膜熱(39)
6 その他(36)[↓13]	6 その他(49)	6 その他(49)
(合計 1,277)	(合計 1,191)	(合計 1,070)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,277件であり、7%(86件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
ヘルパンギーナ 133%	感染性胃腸炎 22%
RSウイルス感染症 23%	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 6%	

3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、減少傾向を示していますが、引き続き感染者が確認されています。
また、ワクチン接種した方であっても感染している事例もあり、ブレークスルー感染も確認されています。ウイルス量もワクチン接種者と未接種者での差はあまりなく、ワクチン接種者であっても二次感染を引き起こす可能性があります。
マスク着用、手洗い、換気など感染対策を継続し、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
他県においても感染者は引き続き確認されています。感染流行地域への不要不急の往来は慎重な判断が必要です。
- RSウイルス感染症は、減少傾向を示していますが、引き続き患者報告数が確認されており、注意が必要です。
- ヘルパンギーナが、西部地区で急激に増加しており、注意が必要です。なお、10月13日に県内全域に警報を発令しました。
- 感染性胃腸炎が継続して発生しており、集団感染も報告されています。10月に入ってノロウイルスによる感染者も確認されており、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年11月26日(金)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第40週から第43週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(40週～43週)4週 (R3.10.4～R3.10.31)	前回(36週～39週)4週 (R3.9.6～R3.10.3)	前々回(32週～35週)4週 (R3.8.9～R3.9.5)
1 感染性胃腸炎 (266) [↑ 69]	1 R S ウイルス感染症 (438)	1 R S ウイルス感染症 (686)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (221) [↑ 41]	2 感染性胃腸炎 (197)	2 感染性胃腸炎 (202)
3 ヘルパンギーナ (191) [↑ 136]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (180)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (193)
4 R S ウイルス感染症 (34) [↓ 404]	4 ヘルパンギーナ (55)	4 咽頭結膜熱 (30)
5 突発性発疹 (27) [↑ 2]	5 突発性発疹 (25)	5 突発性発疹 (17)
6 その他 (40) [↑ 12]	6 その他 (28)	6 その他 (26)
(合計 779)	(合計 923)	(合計 1,154)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は779件であり、16%(144件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
ヘルパンギーナ	247%	R S ウイルス感染症	92%
感染性胃腸炎	35%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23%		

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、散発的に県内で確認されています。全国的にも減少傾向ですが、全国的にはクラスターが発生している地域もあり、県外往来を起因としたと推定される県内感染事例も確認されています。
県内、県外往来を問わず、マスク着用、手洗い、換気など感染対策は継続して実施するとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- ・ヘルパンギーナは、西部地区ではピークを越えましたが、東部地区で急増しており、引き続き注意が必要です。なお、引き続き警報を発令しています。
- ・感染性胃腸炎が西部地区で急激に増加しています。集団発生は他地区でも確認されており、全県で注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌感染症の患者報告数が東部地区で増加しており、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年12月14日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第44週から第47週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(44週～47週)4週 (R3.11.1～R3.11.28)	前回(40週～43週)4週 (R3.10.4～R3.10.31)	前々回(36週～39週)4週 (R3.9.6～R3.10.3)
1 感染性胃腸炎 (416) [↑150]	1 感染性胃腸炎 (266)	1 R S ウイルス感染症 (438)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (196) [↓25]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (221)	2 感染性胃腸炎 (197)
3 手足口病 (117) [↑98]	3 ヘルパンギーナ (191)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (180)
4 ヘルパンギーナ (114) [↓77]	4 R S ウイルス感染症 (34)	4 ヘルパンギーナ (55)
5 水痘 (29) [↑25]	5 突発性発疹 (27)	5 突発性発疹 (25)
6 その他 (55) [↑15]	6 その他 (40)	6 その他 (28)
(合計 927)	(合計 779)	(合計 923)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は927件であり、19%(148件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	516%	R S ウイルス感染症	82%
感染性胃腸炎	56%	ヘルパンギーナ	40%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、県内での11月の新規感染者確認数は1名ですが、全国的にはクラスターが発生している地域もあります。また、海外では新たな変異株オミクロン株の確認数が急増しています。
県内、県外往來を問わず、マスク着用、手洗い、換気など基本的な感染対策を継続して実施するとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数は、全ての地区で増加傾向となっており、引き続き注意が必要です。流水、石けんによる手洗いを励行してください。
- ・手足口病の患者報告数が、東部地区で増加しており注意が必要です。
- ・水痘の患者報告数が増加しています。12月1日に発令された注意報は、12月8日に解除されましたが、引き続き注意が必要です。
- ・ヘルパンギーナの患者報告数が急増していた東部地区はピークを越えました。なお、10月13日に発令したヘルパンギーナ警報は、12月8日に解除されました。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年1月19日(水)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和3年第48週から第52週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(48週～52週)5週 (R3.11.29～R4.1.2)	前回(43週～47週)5週 (R3.10.25～R3.11.28)	前々回(38週～42週)5週 (R3.9.20～R3.10.24)
1 感染性胃腸炎 (484) [↓ 20]	1 感染性胃腸炎 (504)	1 感染性胃腸炎 (262)
2 手足口病 (237) [↑ 113]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (267)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (213)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (230) [↓ 37]	3 ヘルパンギーナ (149)	3 ヘルパンギーナ (200)
4 ヘルパンギーナ (62) [↓ 87]	4 手足口病 (124)	4 RSウイルス感染症 (116)
5 水痘 (39) [↑ 10]	5 突発性発疹 (31)	5 突発性発疹 (36)
6 その他 (64) [↓ 8]	6 その他 (72)	6 その他 (40)
(合計 1,116)	(合計 1,147)	(合計 867)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,116件であり、3%(31件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
手足口病 91%	ヘルパンギーナ 58%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 14%
	感染性胃腸炎 4%

3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、令和3年12月は新規陽性者の確認はありませんでしたが、1月に入り、主にオミクロン株の感染事例が急増しています。県外往来を起因とした家庭内や友人との会食などマスク着用していない場面での拡大が多く見られます。オミクロン株の県内確認事例では、感染から発症までの期間が2～3日間と短く、感染が急速に広がるおそれがあります。引き続き県内、県外往来を問わず、マスク着用、手洗い、換気など基本的な感染対策は継続して実施するとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- 手足口病の患者報告数は、ピークを越えました。
- 水痘の患者報告数は減少傾向が見られますが、引き続き注意が必要です。